

水と 暮らす

福井市
水道
100周年

Fukui City Water Supply 100th Anniversary

福井市上下水道局

時が流れ
水が流れ
人が潤う





福井市水道100周年記念ロゴマーク

公募の結果、応募作品の中からロゴマークを決定しました。

「100」の数字と水道の蛇口を組み合わせ、にっこりした笑顔が水道の未来を明るく照らします。
マークを右に90度回転すると、福井市の「福」の文字にも見えるデザインです。
左にあるビックリマーク「！」は、これからも水道を守り続ける決意を表しています。

おいしい水は福いいネ！ これからも守り続ける日常 福井市水道100周年

水は、私たちの暮らしに欠かせない大切なものです。
福井市の水道は、大正13年（1924）9月に給水を開始し
令和6年（2024）に100周年を迎えます。
この節目を迎え
本市の水道事業を支えていただいた
すべての関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。
福井市上下水道局は、より安全で安心できる水道を目指し
将来に向けてさらに高品質な水道水を供給できるよう
取り組んでまいります。
引き続き、市民の皆様、関係者の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



福井市水道マスコットの
アクアちゃん



福井市ロゴキャラクターの
福いいネくん

市長あいさつ

100周年記念誌

福井市水道

福井市は、戦災や震災、水害という数多くの災害に見舞われてきましたが、不屈の気概をもってこの困難を乗り越え、不死鳥のごとく復興し、発展してまいりました。市民の暮らしと都市の成長を支えてきた本市の水道事業は、大正13年9月に給水を開始し、令和6年に100周年を迎えます。これもひとえに、水道事業の発展にご尽力いただいた先人たちのたゆまぬ努力と苦勞、多くの関係者の皆様のご支援とご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。

本市の水道事業は給水開始以来、市勢の発展や近隣町村との合併、市民生活の向上に伴う水需要の増加に対応するため、事業規模を拡大してきました。この間、昭和20年の福井空襲、昭和23年の福井地震により水道施設は壊滅的な被害を受けましたが、国並びに近隣の都市から献身的な応援を受け、復旧事業に着手し、この危機を乗り越えました。その後も、6次にわたる拡張事業を完了し、第7次整備事業では、拡張から維持管理・更新へと転換し、現在も第8次整備事業を進めながら約25万人の市民に水道水を提供しています。

令和6年は、水道事業が迎える大きな節目であるとともに、本市にとって100年に1度の好機ともいわれる北陸新幹線福井開業を迎えた年でございます。この機会を最大限に活かし、全国に誇れる魅力あるまちづくりの実現のため、様々な施策を進めていく所存でございます。

水道事業におきましても、安全で安心な水道水を将来にわたって供給し続けるため、持続可能な水道事業の構築に向けしっかりと取り組んでまいります。今後とも、市民の皆様をはじめ、関係各位の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福井市長 西行 茂



福井市水道 100 周年記念誌



市長あいさつ

もくじ

第1章／福井市の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・P1

第2章／福井市水道100年のあゆみ・・・・・・・・P2

福井市水道のはじまり・・・・・・・・・・・・P3

戦災と震災を乗り越えて・・・・・・・・・・・・P5

給水量や水需要の増加に対応して・・・・・・P7

停滞する水需要に対応して・・・・・・・・・・・・P9

安定給水を目指して・・・・・・・・・・・・P10

拡張から維持管理・更新の時代へ・・・・・・P11

第3章／現在の福井市水道事業・・・・・・・・・・・・P13

第4章／安全で安心な水道を未来へ・・・・・・・・P16

基本理念と理想像・・・・・・・・・・・・P17

安全で安心な水道を守り続けるために・・P19

災害に強い水道を目指して・・・・・・・・・・・・P21

持続可能な水道事業の構築に向けて・・・・P25

福井市水道水へメッセージをいただきました♪・・・P27

年表／水道のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・P29

発刊にあたって（上下水道事業管理者あいさつ）



第 1 章

水とともに
流れゆく歴史

福井市の沿革

福井市は、九頭竜、足羽、日野の三大河川により形成された福井平野に発達してきました。福井平野は、約3000年前の縄文時代後期から晩期、河川活動によって形成された沖積平野を指し、弥生時代には一部で農耕も可能になっていたといわれ、奈良時代には広大な平野が、穀倉地として注目され北陸道の要所として栄えました。中世には、現市街地の南東にある一乗谷に居を構えた朝倉氏が5代103年間にわたり、戦国大名として広大な地域を支配。市の中心部は、室町時代には北庄(きたのしょう)と呼ばれ、柴田勝家により本格的なまちづくりが始まったといわれています。

徳川家康の天下平定後、次男、結城秀康が68万石の城主として慶長5年(1600)に入封。3代藩主忠昌のとき「北庄」から「福居」となり、のちに「福井」と改められました。さらに幕末の明治22年(1889)には市制が施行され、福井市となりました。

その後、昭和20年(1945)7月の空襲、昭和23年(1948)6月の福井地震など、数度にわたって壊滅的な打撃を受けましたが、市民の不屈の精神によって今日の『不死鳥のまち福井』を築き上げてきました。

平成12年(2000)11月には特例市に移行し、平成18年(2006)2月には、隣接する美山町、越廼村、清水町の3町村と合併しました。その後、平成31年(2019)4月に中核市に移行し、現在(令和6年4月時点)、人口254,502人、面積536.41平方キロメートルとなり、地域の特色を活かしながら日本海側の主要都市としてまちづくりを進めています。

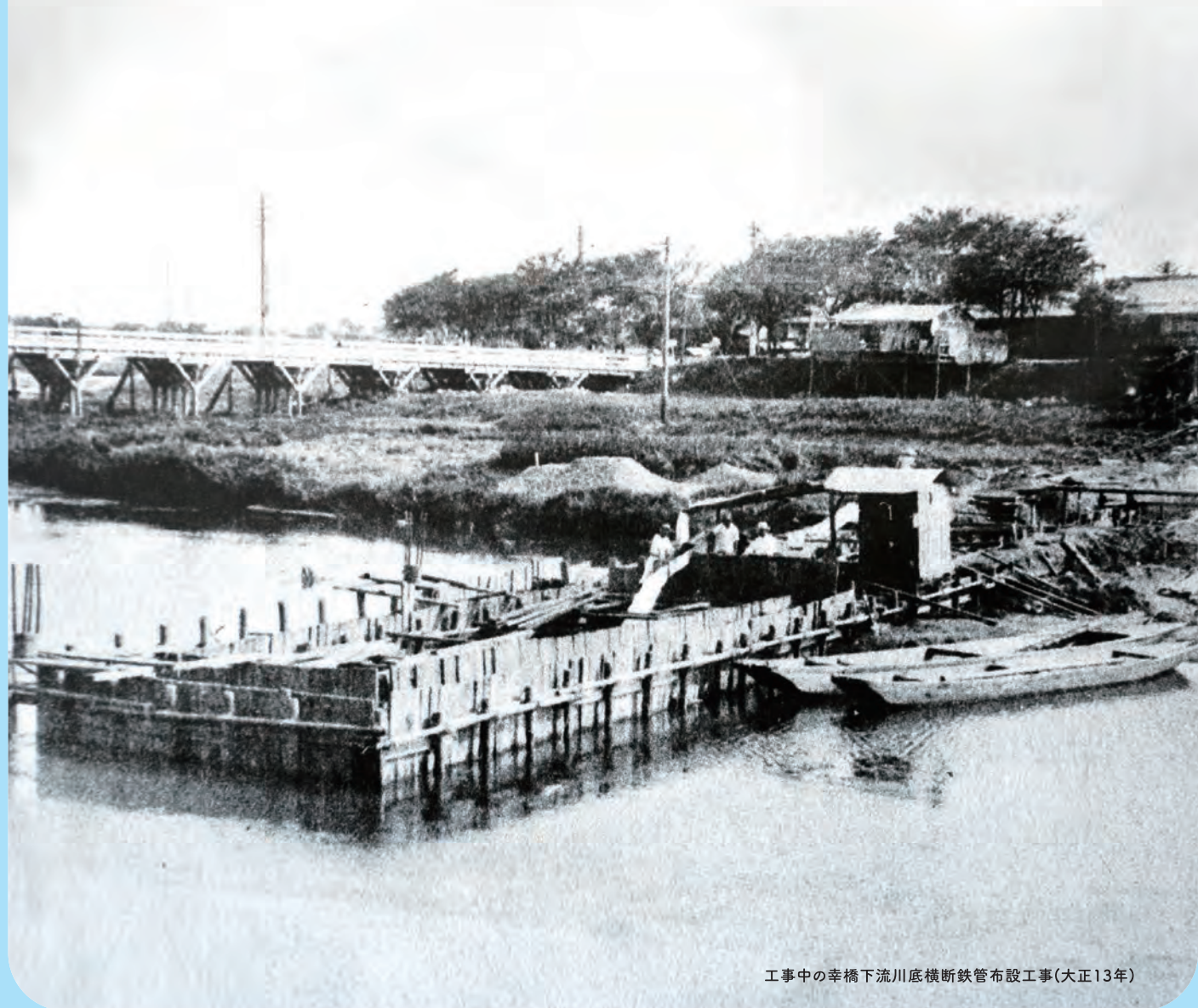


第2章

やがて

水と安心を得た

福井市



工事中の幸橋下流川底横断鉄管布設工事(大正13年)

福井市水道100年のあゆみ 第2章



藩政初期の水道管



市役所付近消火栓使用試験



水道創設時の工事作業風景(大正13年)

福井市水道のはじまり、創設への道のり

福

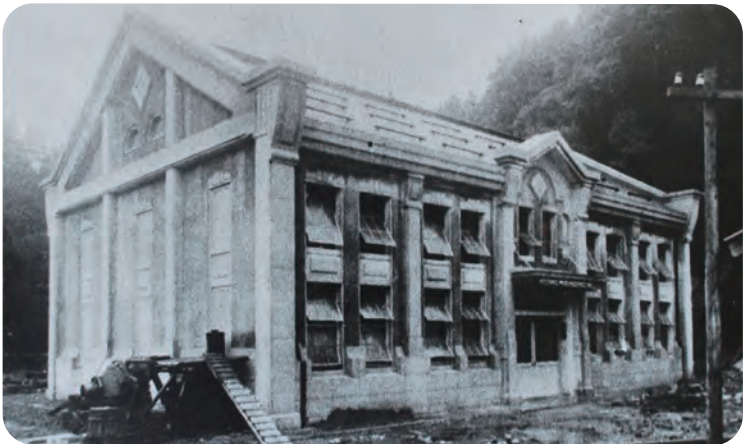
井の水は、古くから市街地を流れる足羽川の南の一部を除いては、地下水の水質も悪く、飲用に適する井戸は少なかったようです。藩政時代から水道布設までの約300年間は、藩祖結城秀康が北の庄城(後の福井城)築城の際に開設したといわれる「芝原上水」を飲料水として使用していました(現在も一部事業進行中)。藩では「上水奉行」を任命し「御上水」と称して水の使用を厳しく制限。上水を汚す者には過料金、銀3匁(もんめ)を

課すという罰則もありました。

福井市は古来、フェーン現象による火災が多く、火事は福井の名物とまでいわれてきました。古くは寛文9年(1669)4月の「寛文の振袖火事(3,579戸を焼失)」から、明和、安永、寛政、嘉永の年代も大火が相次ぎ、明治時代に入っては、33年(1900)、35年(1902)に、市内の大部分を焼失する火災、大正7年(1918)には約450戸、同8年には600余戸を焼くという大火が発生。悪疫の流行も頻繁にあり、特に明治19年

(1886)のコレラの大流行では死者4,784人にも及びました。

このような状況から、大正7年(1918)に、第4代福井市長山品捨録氏は、福井市の将来の発展を図るため上水道の設備を企画、その推進機関として「市改良事業調査会」を設置、京都大学教授大井清一氏、日比忠彦氏、比企忠氏の3博士を顧問に委嘱し、種々調査研究の結果、木田村一本木地区に地下水を求めることに決定。そしてこのとき、福井市に上水道が誕生したのです。



旧 足羽揚水ポンプ場(現 水道記念館)工事

認可	大正10年3月29日
着工	大正10年10月22日
給水開始	大正13年9月1日
事業費	261万5千円

■計画内容

給水人口	100,000人
一日最大給水量	14,610m ³ /日
一日平均給水量	7,490 m ³ /日
一人一日最大給水量	146.0 L(8斗1升)
一人一日平均給水量	79.4 L(5斗4升)



焦土と化した福井市内

物資不足、戦災、震災… たたみかけるような 困難を乗り越えて



戦災復旧のさなか、
福井地震で再び大きな被
害を受けたことを考えると、想像できないほどの苦
労があったでしょうね。

昭和12年(1937)7月、日中戦争が起
こり、やがてアジア・太平洋戦争へと進
展。戦時体制はますます強化され、物
資不足は深刻となります。このため、水
道に関しても資金・資材の入手が困難
となり、事業の拡張はもとより、施設の修
繕補修が厳しい状況となり、施設の維

持すら困難となりました。

昭和20年(1945)7月には、本市はア
メリカ軍の大空襲によって水道施設を
破壊され、漏水率は約70%となりまし
た。市では、戦災による配水管漏水箇
所の修理と各戸給水装置の復旧を戦
災復旧事業としての認可を受け、その

復旧に努めました。

このように懸命な復旧が進められていた
さなか、昭和23年(1948)6月、福井地
方は大地震に見舞われ、水源池、揚水
場、配水池及び本支管など水道施設
は再び徹底的に破壊されたのです。



このころから、災害のときに
給水車が活躍していたのね。



福井地震時の給水車



給水車の活躍



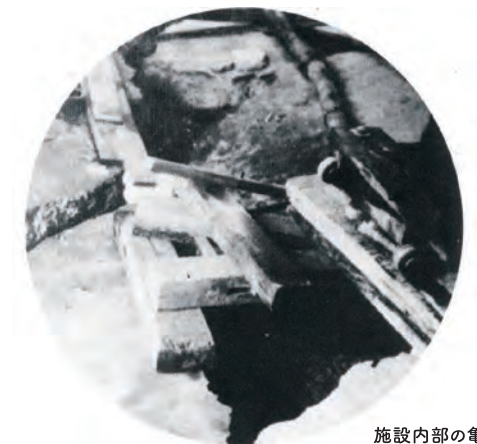
倒壊した大和百貨店



配水管の損壊



地震による地割れ



施設内部の亀裂

市では、国、中部、近畿の各都市から
献身的な応援を受け、応急復旧を行う
とともに、厚生省に対し、昭和23年
(1948)から3か年計画事業として震
災復旧事業を申請。その認可を得て
総工費1億円を投じ、施設の完全復旧
に着手。

以来、財政の窮迫、資材の高騰、労力
不足などの悪条件に悩まされながら
も、これを克服。昭和24年末(1949)
には水道を必要とする市民に対する各
戸給水を完了します。
しかし、漏水箇所の調査や修繕には困
難を極め、昭和24年度(1949)におけ

る有収率は低く34%。その後も漏水防
止や修繕作業には非常に苦心しますが、
昭和28年度末(1953)にすべて終了。
度重なる困難を乗り越え、水道事業は
再び軌道に乗り始めたのです。



人口増加、経済成長、生活様式の変化に対応 福井市水需要拡張事業



丸山配水池



一本木浄水場工事状況

第1次 拡張事業

戦災・震災復興の進捗と周辺地区の市街地化に伴い、人口は年々増大。将来における市勢の発展とこれに即応する給水量の需要を考慮し昭和25年(1950)3月、厚生省に対して、開発・新保・丸山地区の東部に水源を求める事業施行の認可を申請し、同年8月認可。丸山浄水場を建設しました。

◎主な施設整備

- 丸山水源井 ●丸山浄水場・配水池

水道の施設がどんどん増えていったんだね。



着工	昭和25年8月
完了	昭和30年3月
事業費	5,303万円
■計画内容	
給水人口	100,000人
一日最大給水量	21,000 m ³ /日
一日平均給水量	14,500 m ³ /日
一人一日最大給水量	210.4 L
一人一日平均給水量	145.2 L

第2次 拡張事業

第1次拡張事業進行中にも市勢の伸張はめざましく、社村・西安居村・中藤島村等の近村合併による市域の拡大に伴い、水需要は著しく増大。給水制限もやむを得ない情勢となり、昭和30年(1955)に再び第2次の拡張事業に着手。丸山・一本木地区に水源井を増設しました。



◎主な施設整備

- 一本木水源井 ●丸山水源井

着工	昭和31年4月
完了	昭和35年3月
事業費	1億7,860万円
■計画内容	
給水人口	120,000人
一日最大給水量	30,000 m ³ /日
一日平均給水量	20,000 m ³ /日
一人一日最大給水量	250 L
一人一日平均給水量	167 L

第3次 拡張事業

第1・2次拡張事業の施工に伴う給水区域の拡大により水需要が著しく増大したため、引き続き第3次の拡張計画を立案。本計画では、水源を従来の地下水だけではなく、初めて九頭竜川の浅層地下水に求め、長期的な視野に立った第3次の拡張事業に着手しました。



◎主な施設整備

- 九頭竜水源井 ●原目配水池

着工	昭和35年4月
完了	昭和42年3月
事業費	9億3,000万円
■計画内容	
給水人口	163,000人
一日最大給水量	70,000 m ³ /日
一日平均給水量	52,600 m ³ /日
一人一日最大給水量	430 L
一人一日平均給水量	323 L



現在、福井市の約80%の水道水をつくっている九頭竜浄水場(北野下町)は、地元の方々の協力もあり、第4次の拡張期に建てられたよ。



原目配水池



九頭竜浄水場

第4次 拡張事業

第3次拡張事業により給水能力を増大したにもかかわらず、市街地周辺地域の著しい発展を考慮すると、現状の基本計画では将来の需要に応ずることが困難と判断。

第4次の拡張事業計画では、同時に水道事業の一体化及び経営の合理化を図るため、福井市上水道に森田上水道、足羽上水道の統合を計画。水源としては、九頭竜川の浅層地下水を求めるとともに、農業用水合理化事業に同川の表流水を取水して恒久的に確保するものとなったのです。

◎主な施設整備

- 九頭竜水源井 ●九頭竜浄水施設
- 一本木浄水施設 ●九頭竜第2配水池
- 九頭竜管理センター

着工	昭和44年11月
完了	昭和62年3月
事業費	134億4,400万円
■計画内容	
給水人口	256,600人
一日最大給水量	201,250 m ³ /日
一日平均給水量	150,800 m ³ /日
一人一日最大給水量	784 L
一人一日平均給水量	588 L



停滞する 水需要に対応して ライフラインを 最適化



川西水管橋

◎主な施設整備

- 九頭竜水源井 ●丸山浄水場
- 田治島浄水場 ●杉谷配水池

第5次計画事業

第4次拡張事業では、水道事業の一体化及び経営の合理化を図りましたが、当時の低成長経済の影響を受け、需要水量の伸びに変化が生じてきたため、基本計画の見直しを行いました。その後、第5次計画事業では、水道施設の有機的一体化を図るため川西水道を福井市水道に統合。長期的安定給水を目的とする水源の見直しを行い、清浄、豊富、低廉な水の供給を実現しました。本計画はライフラインの確立、経営基盤強化と維持管理体制、住民の生活基盤としての水道事業の充実を図るものとなりました。

着工	昭和62年4月1日
完了	平成7年3月31日
事業費	144億1,890万円
■計画内容	
給水人口	269,700人
一日最大給水量	207,300 m ³ /日
一日平均給水量	145,100 m ³ /日
一人一日最大給水量	769 L
一人一日平均給水量	538 L



森田浄水場 浄水池 躯体施工中



森田浄水場 浄水池 完成



森田浄水場 配水塔耐圧版 施工中



森田浄水場 配水塔 躯体施工中



森田浄水場 配水塔 完成

21世紀の安定給水を見据え 安全・安心な給水を目指して

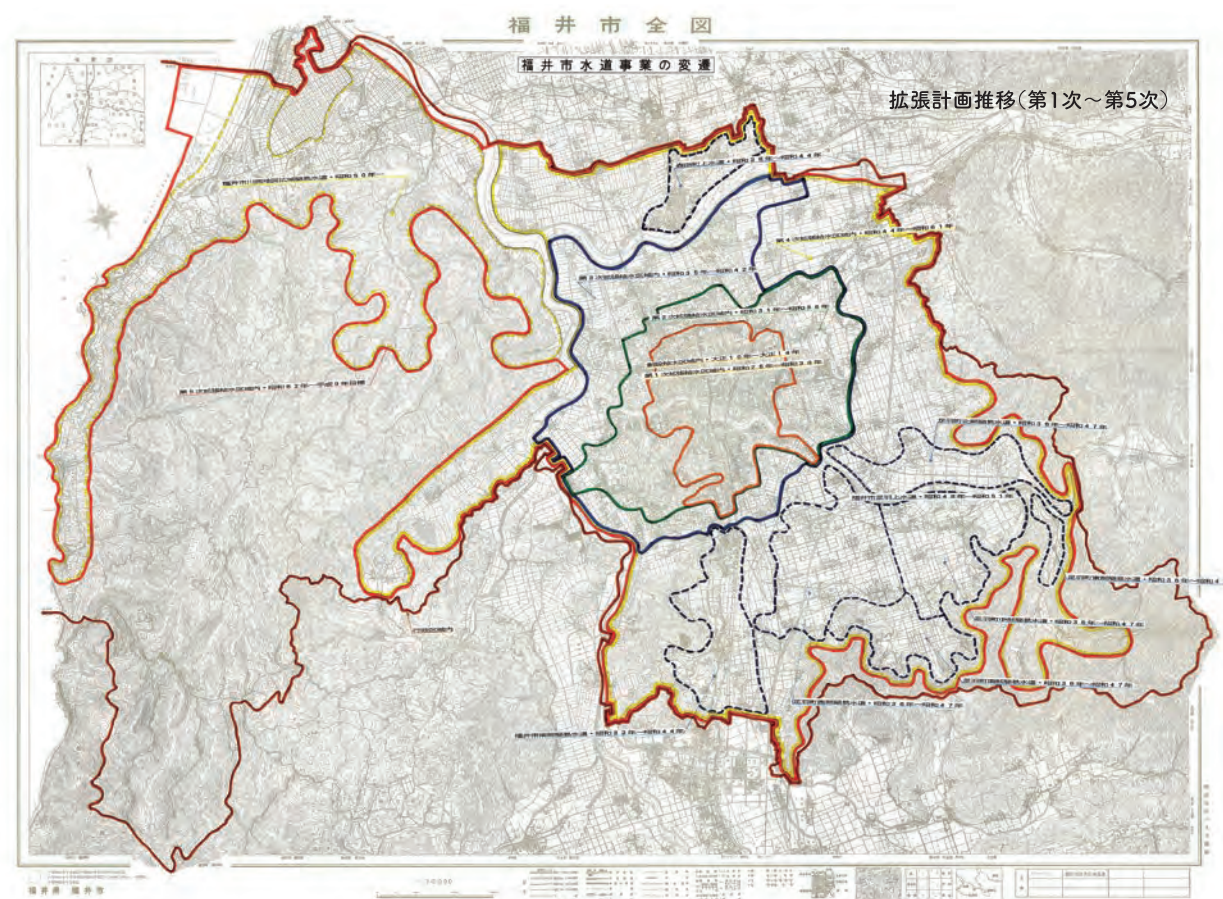
第6次拡張事業

厚生省が平成3年度(1991)に発表した「21世紀に向けた水道整備の長期目標」に基づき、平成5年(1993)に福井市水道事業も「福井市水道事業基本計画」を策定。この基本計画に基づき、国見簡易水道事業を福井市水道事業に統合し、経営基盤の強化と維持管理の充実を図り、長期的水源の確保、ライフライン機能の充実のため老朽施設の整備拡充、石綿セメント管や老朽管の布設替え等の事業を行いました。これは、基本計画の理念である安定給水の確保、給水サービスの向上、経営の健全化、自然災害に対応できる水道の構築を目指し、市民の生活基盤としての水道事業の充実を図るものでした。

◎主な施設整備

- 管理棟(九頭竜管理センター) ●川西南揚水ポンプ所・配水池 ●森田浄水場・配水塔
- 国見揚・配水ポンプ所 ●燈豊揚水ポンプ所・配水池

このころにできた
森田配水塔(マイアクア)
は山がない森田地区に
安定的に水を送るため、
高い場所に水槽を配置
した配水施設だよ。



着工	平成7年4月1日
完了	平成22年3月31日
事業費	358億円
■計画内容	
給水人口	272,700人
一日最大給水量	208,100 m ³ /日
一日平均給水量	143,600 m ³ /日
一人一日最大給水量	763 L
一人一日平均給水量	527 L



九頭竜第1配水池



水道管の耐震化工事

行き届いた水道設備の拡張から、維持管理

高度経済成長期に整備した水道施設の多くが老朽化しているため、拡張事業から

第7次 整備事業

厚生労働省は平成16年(2004)6月に我が国の水道の現状と将来の見通しを分析・評価し、今後の水道に関する重点的な施策課題と具体的な施策及び方策等を示した「水道ビジョン」を公表。福井市水道事業においても、「拡張から維持管理・更新」へと事業方針の転換を行い、「信頼に応える水づくり～いつまでも暮らしにうおいを～」を基本理念とした「福井市水道ビジョン」を平成22年(2010)3月に策定しました。

「福井市水道ビジョン」とは(平成22年度～平成30年度)		
5つの水づくり (基本目標)	1 いつでもおいしい	将来にわたって持続可能な水道事業を展開していくため、5つの基本目標を設定しました。その目標に向けた実現方策を明らかにするために策定した計画です。
	2 災害に強い	
	3 健全で効率的な	
	4 お客様の満足に応える	
	5 環境に優しい	

◎主な施設整備

- 九頭竜第1配水池
- 九頭竜送水ポンプ場更新

着 工	平成22年4月1日
完 了	令和2年3月31日
事業費	160億円
■計画内容	
給水人口	253,600 人
一日最大給水量	126,050 m ³ /日
一日平均給水量	92,270 m ³ /日
一人一日最大給水量	497 L
一人一日平均給水量	364 L

・更新の時代へ

整備事業に切り替わりました。



たくさんの水道施設が古くなってきたから、地震に強くなり、新しくするのにお金がかかるのね・・・

第8次 整備事業

近年、我が国の水道事業を取り巻く環境は厳しく、福井市の水道もその例外ではありません。人口減少や節水意識の高まりにより水需要が今後も減少し続ける一方、高度成長期に整備した水道施設の多くが一斉に更新時期を迎え、水道事業を取り巻く環境はこれまで以上に厳しいものになると予測されています。また、大地震や豪雨などに対する災害対策の見直しも必要となったことから、事業の財源を確保するため、平成31年(2019)1月には平成7年(1995)4月以来となる水道料金改定を行いました。このように近年の経営環境の変化に対応し、今後も信頼に応える水づくりを進めていくための指針となる「福井市水道事業ビジョン2020」を令和2年(2020)3月に策定し、「安全で安心な水道」「災害に強い水道」「持続可能な水道」の観点から、基幹施設の更新や耐震化を中心とした第8次整備事業を進めています。

◎主な施設整備

- 九頭竜浄水場、浄水施設更新
- 原目配水池更新

着 工	令和2年4月1日
完 了	令和11年3月31日 予定
事業費	186億円
■計画内容	
給水人口	257,000 人
一日最大給水量	125,200 m ³ /日
一日平均給水量	92,900 m ³ /日
一人一日最大給水量	487 L
一人一日平均給水量	361 L

第3章

現在の水道事業

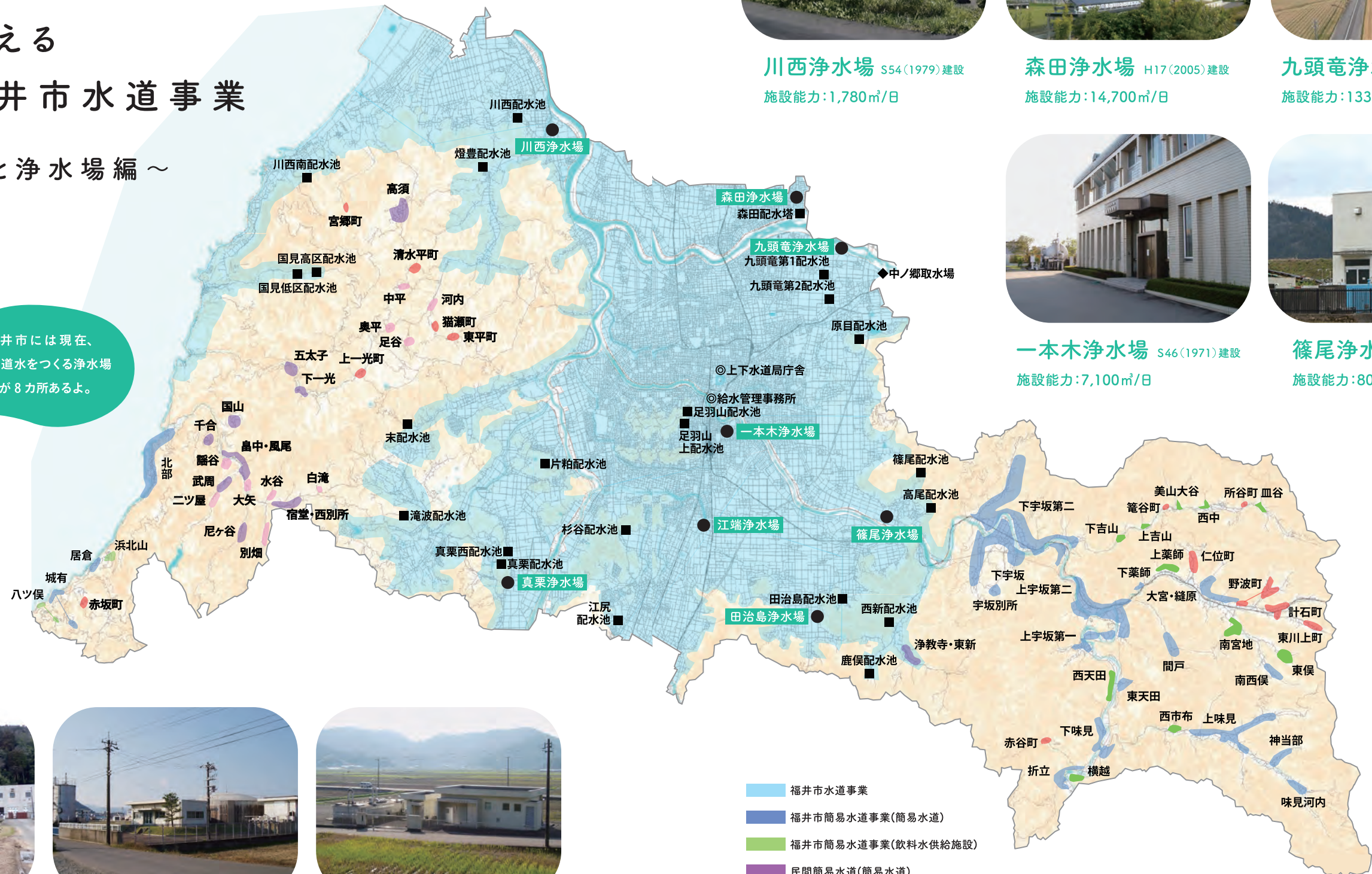
市民を支える

現在の福井市水道事業

～給水区域と浄水場編～



福井市には現在、
水道水をつくる浄水場
が8カ所あるよ。



川西浄水場 S54(1979)建設
施設能力:1,780m³/日



森田浄水場 H17(2005)建設
施設能力:14,700m³/日



九頭竜浄水場 S50(1975)建設
施設能力:133,270m³/日



一本木浄水場 S46(1971)建設
施設能力:7,100m³/日



篠尾浄水場 S63(1988)建設
施設能力:800m³/日



真栗浄水場 H3(1991)建設
施設能力:8,200m³/日



江端浄水場 S63(1988)建設
施設能力:4,000m³/日

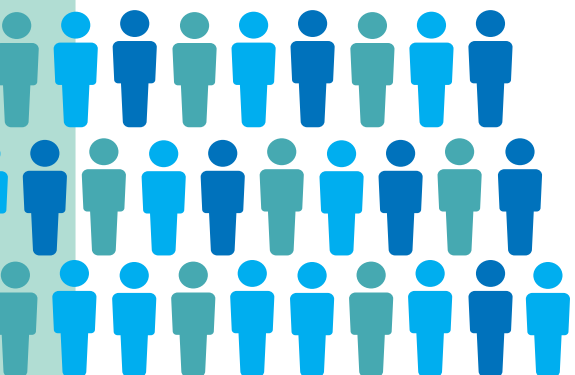


田治島浄水場 H5(1993)建設
施設能力:4,200m³/日

- 福井市水道事業
- 福井市簡易水道事業(簡易水道)
- 福井市簡易水道事業(飲料水供給施設)
- 民間簡易水道(簡易水道)
- 民間簡易水道(飲料水供給施設)
- 未給水区域

地下水、河川、県水からなる 現在の福井市水道事業

～数字で見る福井市の水道編～



給水人口

水道水を使っている人数

249,334人

※令和6年3月末時点



福井市内の地中に
2,100km以上の
水道管が埋まっているよ！

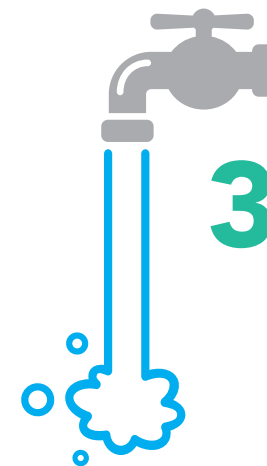


給水栓数

水道メーターの数

108,740栓

※令和6年3月末時点



年間配水量

1年に配水している水道水の量

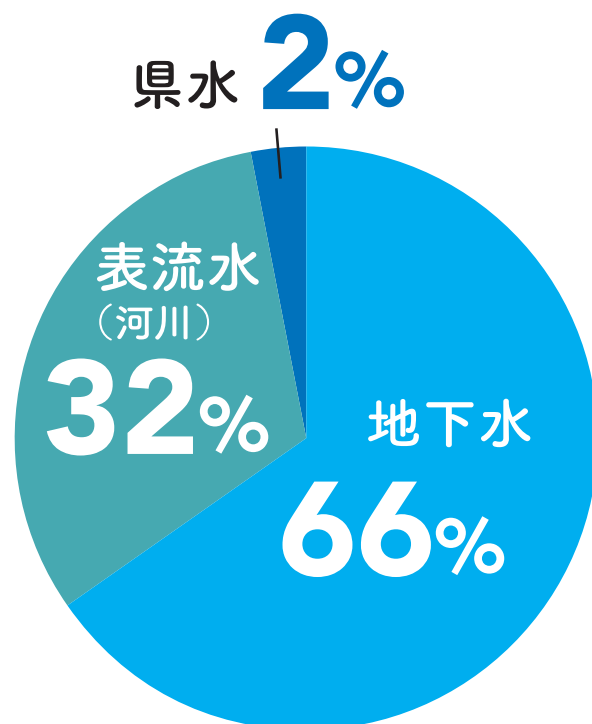
32,724,106 m³

※令和6年3月末時点

水道管の総延長

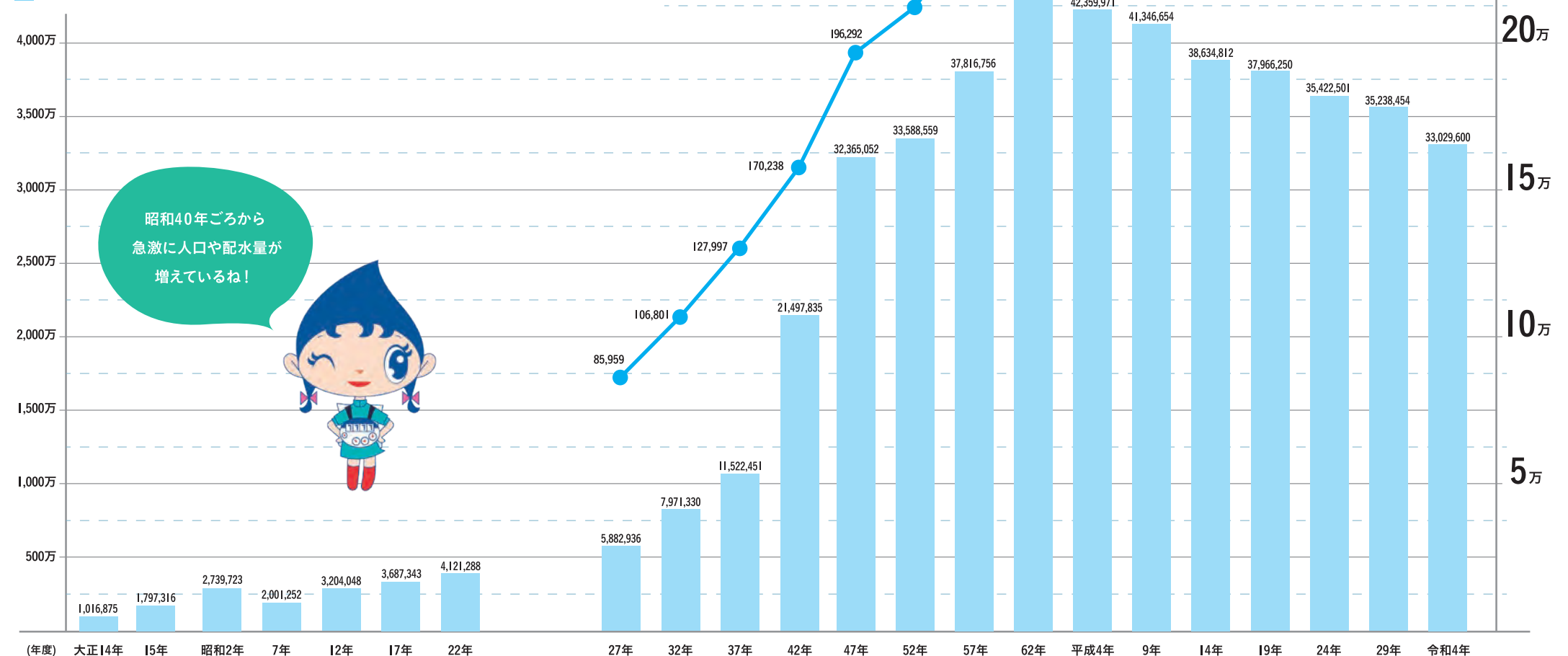
2,111,516.4 m

※令和6年3月末時点



福井市の上水道は、河川などの地表面を流れる地下水(58カ所)と表流水からなる自己水源、さらに福井県が実施する日野川地区水道用水供給事業からの受水(県水)を水源としています。

■ 年間配水量(m³)



昭和40年ごろから
急激に人口や配水量が
増えているね！



第4章

水のある暮らしを 守り続ける



基本理念と理想像

近年、水道事業を取り巻く環境は大きく変化し、水需要減少や水道施設の老朽化、大規模災害への備えなど、福井市の水道事業は多くの課題に直面しています。

将来にわたって安全で安心な水道水を供給し続けるために、福井市では総合計画や国の方針との整合性を図り、近年の経営環境の変化に対応した「福井市水道事業ビジョン

2020」を令和2年(2020)3月に策定。計画期間は令和2年度(2020)から令和10年度(2028)までの9年間とし、次の100年を見据えた事業の推進を図っていくこととしました。

福井市水道事業ビジョン2020

〈基本理念〉

安全で安心な水道を次の100年のために
信頼に応える水づくり

理想像

(1)安全で安心な水道

市民に、安全で安心な水道水を安定的に供給し続けることが水道事業者の使命です。そのためには、水源から家庭の蛇口までの水質管理と水道施設を健全な状態に保つことが必要です。水質監視の強化や水道施設の計画的な更新などを行うことで、安全で安心な水道を確保します。

(2)災害に強い水道

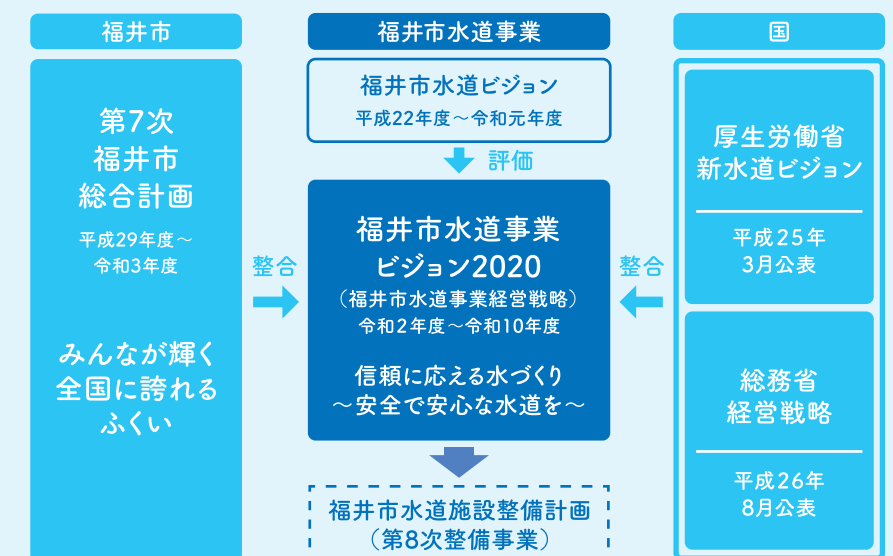
近年、各地で大地震や豪雨災害が頻発し、大きな被害が生じています。大規模災害発生時においても水道施設の被害を最小限とし、被害が生じた場合は迅速かつ確実に水道水を供給できるよう、水道施設の耐震化と応急給水、応急復旧のための体制づくりを進めます。

(3)持続可能な水道

今後も、人口減少と節水機器の普及による水需要の減少は続き、それに伴い給水収益は減少すると予想されます。このような状況にもかかわらず、水道施設の耐震化や更新をこれまで以上に進めていく必要があるため、本市の水道事業の経営はますます厳しくなることが見込まれています。

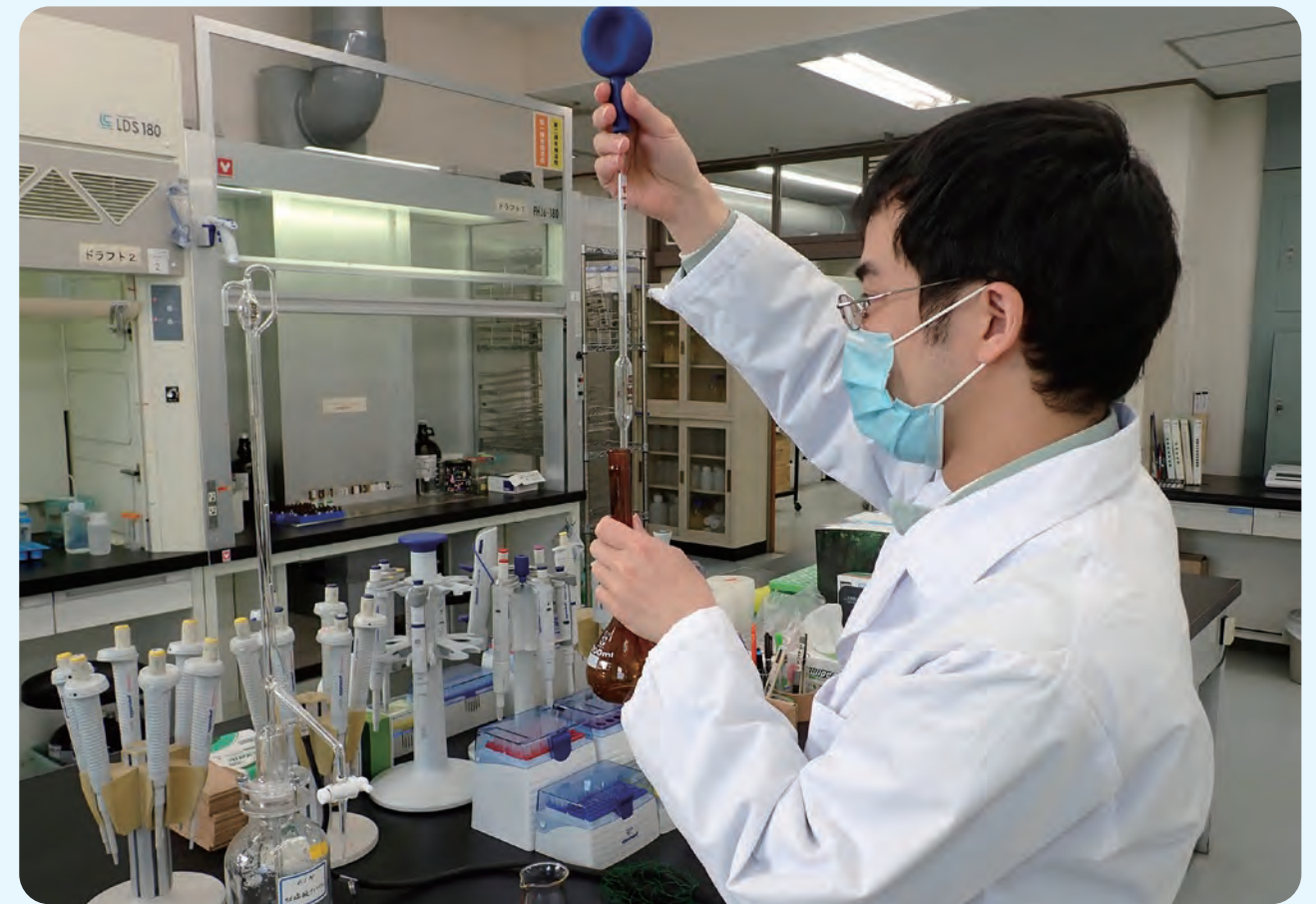
水道の供給を持続可能なものとするため、水道施設の統廃合などによる投資の合理化や費用の縮減を進め、経営基盤の強化を図るとともに、お客様サービスの向上や、人材の育成により安定した経営を実現します。

福井市水道事業ビジョン2020の位置付け





水質監視局（二日市町）



検査風景

安全であること、安心であること それが、普通であること

水質監視の強化

水 質の監視は、安全で安心な水道水を供給するために必要不可欠なものです。水道水の水質を良好な状態に保つには、原水の監視や給水栓での水質変化を初期段階で把握することが重要です。本市では、水質監視局を5カ所設置し、常時、水質の監視を行っています。

水安全計画※に基づき、水源から給水栓までの水質管理を行います。特に原水

については、水質検査計画※に基づき、水道法に示されている「水質基準項目」や水質管理上留意すべき「水質管理目標設定項目」、さらに水源の特性にあわせて市が独自に設定した項目など、計179成分の水質検査を実施しています。これらの結果を分析・評価することで、安全で安心な水道水の供給につなげています。

※水安全計画
水源から給水栓に至る水道システムに存在する危害を抽出・特定し、それらを継続的に監視・制御することにより、安全な水の供給を確実にするシステムづくりを目指すもの。

※水質検査計画
水道水の安全確保を目的として、適正な水質管理を行うために水質検査項目や水質変動も考慮した採水場所及び検査回数など具体的な検査内容を定めたもの。

水質検査体制の充実

本 市は、日本水道協会が定めた水道GLPを平成22年度（2010）に取得し、信頼性の高い水質検査を実施しています。

また、水道法で定められた水質検査のすべてを職員自らが行うことで、水質の異常に対し直ちに検査できる体制を整えています。

今後も引き続き、水質検査体制の充実を図り、安全で安心な水道水を皆様へお届けします。



水道GLP認定証

安全で安心な
水道水を利用できる





九頭竜浄水場薬品沈澱池

いつまでも、やさしく強い水道を目指して

私たちの生活に欠かせない水道ですが、地震・豪雨などの災害や不慮の事故などにより、水道施設が被害を受け、断水になることがあります。近年では、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震など、大規模な地震が各地で頻発しています。また、施設の老朽化等による漏水事故が発生し、大規模な断水となる事例も多発しています。これらのことを教訓に、災害に強い水道施設へと更新を進めています。

浄水施設・配水池・重要給水施設配水管路の耐震化

昭和50年(1975)に稼働を開始した九頭竜浄水場は、本市の浄水施設能力の7割を超える最も重要な施設であるため、優先的に耐震化を図ります。

昭和42年(1967)に稼働を開始した原目配水池は、九頭竜浄水場で浄水した水道水を貯留する最も重要度の高い配水池であることから耐震化を図

ります。

また、大規模な地震が発生した場合は、災害拠点病院や避難所などの重要給水施設への給水が特に重要となります。配水池から重要給水施設までの水道管を重要給水施設配水管路とし、優先的に耐震化を進め、有事の際の水道水の安定供給に努めます。

普段当たり前の水道水が突然出なくなると、とっても困るわね。水道施設を地震に強いものに更新しているよ。



基幹管路の耐震化

地震により基幹管路が被害を受けた場合、断水が長期化する恐れがあります。災害時においても安定した水を供給するため、耐震化計画を策定し、基幹管路の中でも特に重要度が高い区間の管路や、老朽化が著しい管路の更新を優先して実施します。

本市では、平成23年(2011)から、100年を超える使用が可能で、高い耐震性を有するGX形ダクタイル鋳鉄管を採用。今後も、新技術の導入を検討し、投資額の抑制を図ります。



NS形ダクタイル鋳鉄管布設状況(原目町)



GX形ダクタイル鋳鉄管【提供：日本ダクタイル鉄管協会】



防災訓練の様子



防災訓練の様子



防災訓練の様子



派遣先での受水槽への給水の様子

応急給水活動の実績と応急給水体制の強化

地

震や豪雨などの災害により断水が発生し、水の確保が困難なときには給水車が活躍します。断水が発生した被災地へ、公益社団法人日本水道協会からの応援要請に基づき、福井市からも給水車を派遣し、支援活動を行っています。平成23年(2011)の東日本大震災、平成28年(2016)の熊本地震、

令和6年(2024)の能登半島地震などの被災地へ職員を派遣しました。また、福井市では、給水車や組立式給水コンテナ、移動式浄水装置を常時保有しているほか、災害時の飲料水確保のため、市内43カ所の指定避難所などに非常用貯水装置を設置しています。



非常用貯水装置上屋

災害発生時の連携強化

地

震などの災害が発生した場合、速やかに給水能力を回復できるように、公益社団法人日本水道協会中部地方支部や近隣事業者と「災害時

相互応援に関する協定」を締結しています。引き続き、近隣事業者や日本水道協会中部地方支部との連携を密にし、相互協力体制を確保します。



災害時に
お互い助け合うことを
約束しているよ。



派遣先での応急給水の様子



非常用発電設備(九頭竜配水ポンプ場)



非常用貯水装置設置状況



上下水お客様センター



ふくいおもてな水

自然と人をつなぐ

持続可能な水道事業の構築に向けて

お客様サービスの向上

上 下水お客様センターを設置し、お客様への的確かつ迅速な対応を行っています。お客様の満足度や信頼が高まるよう、苦情への対応を徹底するとともに、ICTなどの新技術を活用したお客様サービスの提供や、水道料金

の支払い方法の多様化等、新たなサービスの可能性を検討します。水道事業を将来にわたり健全に運営するためには、お客様に正しく水道事業の状況を理解していただくことが重要です。PRイベントや水道施設の見学、ホーム

ページ、SNS、上下水道局広報誌、出前講座などにより、水道に関する分かりやすい情報の発信とお客様ニーズの把握を行っています。



上下水道展（PRイベント）の開催



広報誌「上下水道のミカタ」

経営基盤の強化

安 全で安心な水道水を安定的に供給し続けるためには、施設を健全に管理していくことが重要であり、長期的な視点で効率的な資産管理を図るアセットマネジメントの考え方が有効です。施設の更新や修繕などの維持管理においては、長期的な投資・財政計画の見通しに基づき、優先度に応じた施設整

備を行います。また、事業の平準化を図りながら、水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を進めます。人口減少や節水意識の高まりによる水需要の減少に伴い料金収入が減少し続ける中、水道施設の更新や耐震化を着実に進めていくためには、事業の財源確保が欠かせません。投資の合理化や経費の削減を行っても

なお、将来的に財源の不足が見込まれていることから、概ね5年ごとに水道料金の水準について検証し、適正な財源確保に努めます。水道施設の更新や耐震化には多大な費用がかかりますが、水道施設は長期間使用するため、自己資金だけでなく、企業債を借り入れることにより、世代間の負担の公平化を図っています。

技術の継承

平 成20(2008)年度に「福井市企業局(現:上下水道局)技術研修センター」を設置し、専門的な研修を実施するなど技術継承に努めてきました。今後も、豊富な経験を有する人材を活用した研修の充実や、関係団体が行う研修への職員派遣などにより、技術の継承を図ります。また、長期的な視点に立った人材の確保を図り、業務量の増大に対応します。

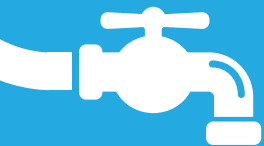


職員研修

安全で安心な水道水を守るために、技術を伝えて人を育てることに力を注いでいるよ。



給水車運転操作講習会



福井市の水道水へ
メッセージを
いただきました♪

おかげさまで
これまでも
これからも
皆様と共に



学校給食センター



給水管理事務所



福井キャノンマテリアル株式会社



福井市東消防署



福井管工事業協同組合



浄水管理事務所



ヴェオリア・ジェネッツ株式会社



水道記念館



森田さくらこども園





水道のあゆみ



大正7年10月	調査実施		震災復旧工事3ヵ年計画終了		上水、下水の4課とする		10月	機構改革により下水道部独立
大正8年8月	地下水を水源として計画	8月	第1次拡張事業着工（丸山水源）		毎月検針、集金を隔月とし、料金計算機械化を開始			水道部内を経理課、計画課、給水課、浄水課に変更
10月	市議会で水道布設案を可決	昭和26年4月	水道料金改定				昭和50年5月	足羽水道拡張事業変更認可（水源の追加）
大正10年3月	上水道布設認可	昭和27年4月	水道料金改定		鮎川町、南大安寺地区に市営簡易水道を設置		7月	川西地区広域簡易水道事業認可
8月	水道建設事務所開設		第1次拡張事業で、ポンプ直送による配水開始		一本木水源に除鉄除マンガン設備を設置（赤水対策）			川西地区広域簡易水道事業着工
10月	足羽山配水池敷地にて起工式		地方公営企業法公布で、水道が適用事業になる	昭和42年3月	第3次拡張事業完了		10月	水道料金・加入金の改定（平均改定率77.14％）
大正13年9月	上水道事業給水開始	昭和28年1月	水道の会計を企業会計に切替える	7月	森田水道を吸収		昭和51年6月	第4次拡張事業変更認可
大正14年3月	工事竣工		水道部機構改革		原目配水池完成			表流水40,000㎡/日の追加、西安居地区計画給水区域拡張
			庶務課、業務課を統合し経理課に、水道課を上水課に、下水道課を下水課に改める	9月	簡易水道着工（大丹生、小丹生町）		昭和52年3月	農業用水合理化事業着手
昭和10年	水道部設置（庶務課、工務課）	昭和29年4月	納付制を集金制に改める	11月	第3次拡張事業通水		11月	西安居地区給水拡張事業着工
昭和14年5月	水道創業15周年記念式典		水道料金改定（約16％）	昭和43年2月	簡易水道完成（大丹生、小丹生町）		12月	川西地区広域簡易水道一部給水開始
昭和20年	ガス局と水道部を統合、ガス水道局とする	10月	第1次拡張事業で、丸山第2水源井、丸山配水池竣工	11月	水道局を企業局水道部に改める		昭和53年7月	西安居地区一部給水（7町内）
10月	漏水箇所の一斉調査（市内全域）	昭和30年3月	第1次拡張事業完了	昭和44年	経営の改善と合理化のため水道料金徴収の一部を委託		11月	上水倉庫（足羽事務所）完成
	2,330ヵ所で漏水判明	昭和31年4月	第2次拡張事業着工		第4次拡張事業工事着手（厚生省の認可を得る）		昭和54年8月	西安居地区給水拡張事業完了
	終戦復旧工事着工（給水装置、管網漏水箇所を実施） 11月中旬完了	昭和33年9月	南部地区簡易水道着工	11月	足羽水道を吸収		昭和55年3月	川西地区広域簡易水道完成
昭和21年10月	戦災復興院の事業認可を受け、都市計画の区画整理事業として配水管の移設、撤去工事に着工		南部地区簡易水道竣工通水（麻生津地区、大島江端地区）	昭和46年7月	検針、料金徴収の委託を拡充、料金の電子計算委託制を採用		4月	川西広域簡易水道特別会計を廃止し、企業会計に移行
昭和22年4月	水道料金改定	昭和35年3月	第2次拡張事業完了		九頭竜管理センター建設の着工		8月	検針業務完全委託
12月	漏水箇所修理60％完了	4月	第3次拡張事業着工	9月	福井市水道料金制度審議会設置			九頭竜川表流水使用開始
昭和23年4月	ガス水道局が、庶務、業務、ガス、水道、下水道建設事務所となる	昭和36年3月	第3次拡張事業、北野下町水源地で起工式	昭和47年7月	水道料金の口座振替を実施			芝原用水（農業用水）水利利用許可（80,000㎡/日）を取得
8月	幹線通水実施	7月	簡易水道を設置（山室町、高屋町）	8月	水道料金の口座振替を実施		10月	水道料金集金制を廃止
	供用栓2,000個取付け、時間給水を実施	昭和38年	九頭竜水源からポンプ圧送（直送方式）で給水開始	10月	水道料金改定		昭和56年4月	水道料金・加入金の改定
	震災復旧3ヵ年計画（厚生省の認可を得て工事着手）	昭和39年	3ヵ年継続事業として、配水管の取替え（濁水対策）		加入金制度の導入を実施			水道料金（42.65％）、加入金（32.92％）、メーター使用料徴収を廃止
昭和24年7月	震災復旧工事	昭和40年4月	水道料金改定	11月	九頭竜管理センター完成		10月	配水管布設工事に伴う材料の交付制を廃止
	8,000余戸に給水開始、年末には市内全戸に給水完了		4ヵ年継続事業に着手（南部地区簡易水道を上水道に切替え）	昭和48年7月	第4次拡張事業の一部通水（新しい送水管のもの）		昭和57年9月	非常用貯水装置2ヵ所設置
	ガス水道局から水道局が独立	12月	原目配水池建設工事着手（第3次拡張事業）		福井市水道50周年記念式典		昭和58年4月	計量検査所開設
	庶務、業務、水道、下水道の4課とする	昭和41年4月	水道局機構を改正	昭和49年5月	第4次拡張事業変更認可（表流水40,000㎡/日の水源開発）		昭和59年3月	国見簡易水道完成
昭和25年4月	水道料金改定		経理課より業務課を分離し、経理、業務、				6月	設計積算業務の一部電算化
							昭和60年3月	水道料金オンラインシステム稼働

昭和61年11月	足羽山青松園完成
昭和62年2月	第5次計画事業認可
3月	第4次拡張事業完了
4月	第5次計画事業着工
6月	川西広域簡易水道を上水に統合、通水
10月	企業局財務会計システム（予算、出納、決算処理）稼働、財務処理を一部電算化
昭和63年4月	メーター取替え業務を完全委託
9月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成元年3月	川西配水池増設及び緊急遮断弁設置
平成2年10月	水道料金改定（14.83％）
平成3年3月	杉谷配水池を新設、ポンプ圧送方式から自然流下方式に移行
	非常用貯水装置2ヵ所設置
5月	丸山浄水場着工
6月	非常用貯水装置1ヵ所設置
10月	ハンディーターミナル検針業務導入
平成4年3月	丸山浄水場完成
9月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成5年3月	丸山浄水場除鉄除マンガン設備稼働
	福井市水道事業基本計画策定
6月	田治島浄水場構造物着工
10月	原目配水池に緊急遮断弁（φ600）2台設置
平成6年3月	田治島浄水場完成
	非常用貯水装置1ヵ所設置
8月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成7年1月	阪神淡路大震災兵庫県南部地震 被災地 応急給水活動
3月	原目配水池に緊急遮断弁（2期工事）完成
	第5次計画事業完了
	第6次拡張事業認可
4月	水道料金改定（34.62％）
	第6次拡張事業着工

9月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成8年3月	川西南配水池・揚水ポンプ所完成
10月	非常用貯水装置8ヵ所設置
平成9年10月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成10年3月	九頭竜水源用地3ヵ所取得
4月	機構改革によりガス事業と統合
平成11年1月	旧足羽揚水ポンプ場保存工事完了
10月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成12年3月	森田水源用地取得
	国見揚・配水ポンプ所完成
7月	森田浄水場建設用地取得
10月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成13年8月	燈豊町揚水ポンプ所完成
11月	非常用貯水装置2ヵ所設置
12月	川合鷺塚東地区を給水区域に統合
平成14年3月	森田浄水場建設用地取得（第2期分）
7月	森田水源井用地4ヵ所取得
10月	非常用貯水装置1ヵ所設置
11月	水道料金新システム構築と分散化
平成15年3月	九頭竜浄水場消毒設備を次亜塩素酸ナトリ ウム使用に変更
4月	企業局財務会計新システム導入
10月	非常用貯水装置1ヵ所設置
11月	福井市水道事業基本計画策定
平成16年3月	一本木浄水場ろ過タンク設備更新
4月	福井市水道記念館オープン
10月	非常用貯水装置1ヵ所設置
	浄水場（九頭竜、一本木）維持管理部門業務 委託開始
平成17年5月	水道料金コンビニ収納開始
9月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成18年1月	森田配水塔築造工事着工
2月	市町村合併により清水町水道事業を統合
11月	水道料金納付書即時発行導入

12月	非常用貯水装置1ヵ所設置
	清水地区において県営水道受水開始
平成19年2月	企業局ペットボトル「おいしいふくいの水」製 造販売
	非常用貯水装置1ヵ所設置
3月	能登半島地震 被災地応急給水活動
7月	新潟県中越沖地震 被災地応急給水活動
平成20年3月	森田浄水場・森田配水塔完成
11月	災害用備蓄水セット「もしもリュックBOX」製 造販売
平成21年3月	非常用貯水装置1ヵ所設置
11月	福井市水道ビジョン策定
平成22年3月	非常用貯水装置1ヵ所設置
	第6次拡張事業完了
4月	第7次整備事業着手
平成23年3月	九頭竜浄水場中央監視制御設備更新
	非常用貯水装置1ヵ所設置
	東日本大震災 被災地応急給水活動
7月	福井市水道記念館リニューアルオープン
	新潟県豪雨災害 被災地応急給水活動
8月	「おいしいふくいの水」ペットボトルの水質異 常問題が発生し、500mℓ 及び2ℓ のペットボ トルの販売中止
平成24年3月	非常用貯水装置1ヵ所設置
平成25年3月	非常用貯水装置2ヵ所設置
4月	料金徴収業務委託導入
平成26年3月	非常用貯水装置4ヵ所設置
7月	企業局ペットボトル「ふくいおもてな水」製造 販売
平成27年3月	非常用貯水装置1ヵ所設置
10月	金融機関のキャッシュカードで口座振替の申 込みが行える「ページー口座振替受付サービ ス」開始
	インターネットで口座振替の申込みが行える

	「Web口座振替受付サービス」開始
平成28年3月	非常用貯水装置1ヵ所設置
	福井市水安全計画策定
4月	熊本地震 被災地応急給水活動
平成29年3月	非常用貯水装置1ヵ所設置
	福井市水道事業経営戦略策定
7月	九頭竜浄水場送水ポンプ場・九頭竜第1配 水池完成
平成30年4月	非常用貯水装置1ヵ所設置
	西日本豪雨災害 被災地応急給水活動
平成31年1月	水道料金改定（19.80％）
令和元年5月	丸山水系の水道施設（取水施設・浄水場・配 水池）を廃止
令和2年3月	清水畑揚水ポンプ所・末配水池完成
	福井市水道事業ビジョン2020策定
	第7次整備事業完了
4月	ガス事業を福井都市ガス株式会社へ譲渡
	機構改革により下水道事業と統合
	第8次整備事業着手
	「電子決済支払いサービス」開始
令和3年1月	羽坂配水区の水道施設（揚水ポンプ所・配水 池）を廃止
10月	水管橋崩落事故 被災地応援活動
令和4年8月	豪雨災害（南越前町） 被災地応急給水活動
9月	台風15号 被災地応急給水活動
令和5年8月	「電子決済支払いサービス」スマートフォンア プリの追加
令和6年1月	能登半島地震 被災地応援活動
4月	企業局から上下水道局へ組織名変更
8月	福井市水道100周年記念式典

上下水道事業管理者あいさつ

福井市の水道事業は、大正13年9月に給水を開始し、令和6年に100周年を迎えます。水道創設から現在に至るまで、安全で安心な水道水の供給を続けてこられたのも、先人たちの多大な労苦と努力の賜物であり、心から敬意を表します。この節目を迎えるにあたり、本市の水道事業を支えていただいた多くの関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

近年、人口減少や節水意識の高まりにより水需要が減少する中、施設の大規模更新時期を迎えることや、激甚化・頻発化する自然災害への対応が急務となるなど、水道事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。このような中であっても、水道水の安定供給を確実に次世代へと引き継ぐことが水道事業者の使命であり、責務であります。

新たな時代に移り変わっても、水道は市民生活に欠かせない重要なライフラインです。先人たちが築き上げてきた貴重な水道資産を引き継ぎ、施設の強靱化を進めるとともに、信頼に応える水づくりに全力で取り組んでまいります。

引き続き、市民の皆様、関係者の皆様の、より一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

福井市上下水道事業管理者
前田 和宏

